

平成31年3月31日

薩摩川内市議会

議長 福田 俊一郎 様

（会派代表者経由）

会派の名称 公明党

経理責任者氏名 中島 由美子



政務活動費に係る収支報告書

薩摩川内市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、次のとおり、平成30年度政務活動費に係る収支報告書を提出します。

1 収入

政務活動費 360,000 円

2 支出

（単位：円）

科目	金額	備考
調査研究費	313,514	7/30～8/1宮城県気仙沼市・大崎市 1/28～30 岡山県玉野市・新見市
研修費		
資料作成費		
資料購入費	21,570	行政キーワード、日本農業新聞
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
人件費		
事務費	21,382	インクカートリッジ、タブレット用ケーブル等
合計	356,466	

3 残余の額

3,534 円

注1 備考欄には、主たる支出の内訳を記載すること。

2 領収書、活動報告書その他必要な書類を添付すること。

3 会派に属さない議員の場合は、「会派代表者経由」の必要はないこと。

4 会派に属さない議員の場合は、「会派の名称」は記入しないこと。

5 会派に属さない議員の場合は、「経理責任者氏名」とあるのは「議員の氏名」と読み替えること。

平成31年3月31日

薩摩川内市議会

議長 福田 俊一郎 様

会派の名称 公明党
代表者名 中島 由美子



活動報告書

1 調査研究事業

【1回目】

- (1) 視察年月日
平成30年7月30日（月）～8月1日（水） 3日間
- (2) 視察参加者
杉菌 道朗、中島 由美子（2名）
- (3) 視察先及び視察事項
宮城県気仙沼市
・災害の復興状況について
・気仙沼市への本市派遣職員との面談
宮城県大崎市
・大崎市図書館の運営・事業等について（施設調査を含む）
鳴子まちづくり株式会社
・鳴子温泉熱を利用したまちづくりについて
- (4) 調査の概要
別紙のとおり

【2回目】

- (1) 視察年月日
平成31年1月28日（月）～30日（水） 3日間
- (2) 視察参加者
杉菌 道朗、中島 由美子（2名）
- (3) 視察先及び視察事項
岡山県玉野市
・たまの版生涯活躍のまち基本計画について
岡山県新見市
・ICT教育の推進について
- (4) 調査の概要
別紙のとおり

政務調査報告書

平成30年 8月 9日

薩摩川内市議会議長
新原春二殿

公明党
代表 中島由美子



調査日 : 平成30年7月30日～8月1日
研修参加者 : 中島由美子 杉菌道朗

- 調査事項:
- ① 宮城県気仙沼市
(復旧復興の現状とまちづくり)
 - ② 宮城県大崎市 (大崎市立図書館)
 - ③ 宮城県大崎市 (鳴子温泉熱を活かしたまちづくり)

概要については以下の通り

● 気仙沼市復旧復興の現状とまちづくり

説明者: 震災復興企画部 部長 小野寺氏

- 1 食のまち気仙沼市
生で揚がるカツオ・・・気仙沼が日本一 (21年連続)
ふかひれ・・・気仙沼産 (ブランド化に成功)
メカジキ・・・ブランド化進めている
- 2 復旧復興の現状
震災から7年5か月。いまだに仮設住宅にお住まいの方あり。復旧復興同時進行
津波で流され何もなくなる。それでも「海と生きる」・市民の選択
カツオの漁場が2～3時間のところにある・日本一発達した水産クラスター

8割の方が水産にかかわっている
産業再生・・・水産加工・問題点・失われた販路回復、働き手不足（外国人雇用）
震災復興と地方創生を一緒に行う・・・移住者70～150名
何もしていなかったお嫁さんたち（よそからの移住者）が起業家に

↓↓ ↓↓ ↓↓

今、気仙沼が熱い

- 災害に強いまちづくり
30年に一度地震津波が起きる確率99%・保育園等避難訓練実施（親の迎への対応）
地震・津波の起きる時間、曜日、月等様々な要件で被災者の数は違う。東日本大震災は3月11日午後2時46分、これが4月に入っていたら、夜だったら、日曜日だったら・・・微妙な時のおかげで1300名の死者で済んだのかも（大きい声では言えないが）
- 若者の流出による人口減少対策
- 仕事づくり
- 主力産業である水産業の発展
- 人材の育成・・・お嫁さんたちが（これまで何もしていなかった）起業家へ
- 人を中心としたまちづくり・・・人、しごと、まち
- ふるさと回帰センター（東京）・・・しごと、すまい、相談窓口・・・3割は決めている

（感想）

DVDなど映像を使って説明され、たいへんにわかりやすかった。

地震津波により、1300名の方がなくなり、次の予想によって5メートルかさ上げをし、復旧復興、まちづくりを進めておられる。いまだに仮設住宅の方もおられる。しかし、海に生きると決め、主要産業である水産業の再生からあの2011年もカツオ水揚げ日本一を。人手不足の中、移住者、よそから来ていたお嫁さんたち、外国人が様々なまちづくりに。

震災復興と地方創生は一緒だと。何もなくなってそこから作り出す。人口減少・若者流出・人手不足等問題、課題は同じであると思う。東京から地方へ、ふるさと回帰センターでどこまで人に寄り添い地元を選択してもらえるよう相談窓口、仕事、住まいが大事である。

薩摩川内市の今井氏は、4年目になり大変大きな重要な仕事に携わっておられた。

その施設の現状も視察できた。次の災害も見据え、災害に強い街づくりに。自然を活かしながら、自然の恵みを受けながら、さらに自然に負けない。大変なことだが、

前を向いてやるっきゃないと思った。

研修の様子



● 大崎市図書館

説明者：村上司書・・・施設内を回りながら説明

大崎市は、1市6町合併してできた市。人口13万人。
もと合同庁舎跡地に昨年H29年7月20日オープン。ついこの間1周年を迎えた図書館。1周年で30万人達成。3800㎡、前の2倍の広さに。

21万冊の蔵書。事業費46億円。(床は鳴子杉・・・暖かさを感じる)

維持管理費：1億5000万円

職員7人(5人司書資格)

非常勤19人(司書9人資格)

(感想) 広い図書館、まだ新しい図書館であり、床が鳴子杉であることから広くゆったり感を感じる図書館だ。夏休みであるからか多くの方々、子どもたちも多

く読書、学習、研修をされていた。研修室が5部屋、学習室もある。書架は高さはなく子どもたちがどこにいても大人から見える高さで、ゆっくり読めるスペース、ベランダでお茶など飲みながら読めるところ、車いすが通る幅、キッズルームもあり、ティーンズコーナーなどもCD、DVD貸し出し、パソコンを使っての学習スペース、漫画も少々置いてあり、様々工夫がされている。

こんな図書館なら多くの方々が一日過ごせるだろうと思う。

本市もこれくらいあってもと思うが、コンベンションホールの中に入らないのか。

研修の様子



● 鳴子温泉熱を利用したまちづくり

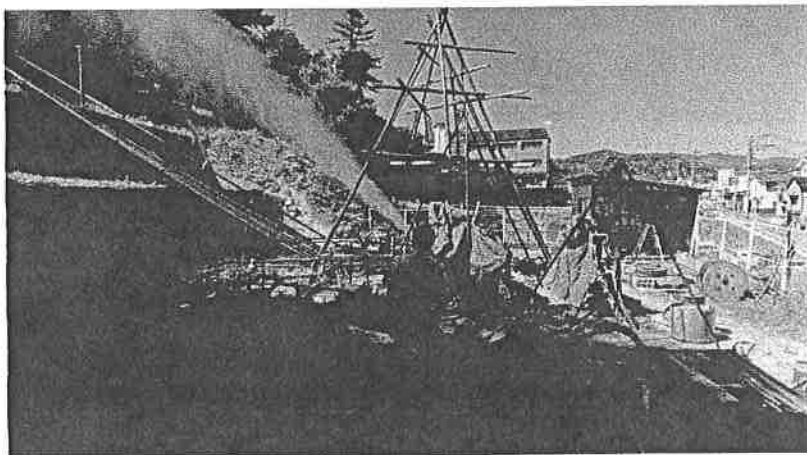
説明者：鳴子温泉まちづくり株式会社（4名）

現場を見ながら、説明を受ける。

（感想） 昭和22年、(株)利根ボーリングにより鳴子、中山平にて地熱開発試験としてボーリング調査が始まり、昭和24年には70本のボーリングを行い、地下における地熱の在り方についての各種試験を実施。この試験で得られた蒸気を使い昭和23年に初めて地熱発電試験に成功。熱水、蒸気の利用についても研究試験が行われ、鳴子地区においては、役場、警察署、小学校の暖房、公衆浴場2か所がこの恩恵を被る。大変に歴史のある話から始まり、現に鳴子温泉町は全体が、雪で道が積もらない、滑らない熱利用をしている。トイレなども暖房が入る暖かなトイレである。また、住民のごみを燃やすことによって出るメタンガスを使ってのカフェやまたその時に出る液体は畑の液肥になるとのこと。温泉水は、残念ながら飲料できないが、暖房、温泉、温泉卵作り、融雪等生活に役立っている。株式会社を作っておられ、経営は国の交付金をつかうため、なかなか儲かるものではないが、地元の方が、東京から帰ってきてまちづくりに力を入れておられる姿が頼もしい。ここも携わる方の後を継ぐ方がいないのが難点。

メタンガスを使つてのカフェでは、東北大学准教授多田氏がごみを燃やすことでコーヒー1杯飲める場所、話ができる顔が見えると高校生がゴミニケーションと名付けてくれたと楽しそうに話して下さった。ゴミ→熱→コーヒー→液肥→肥料と何回も役に立つところが面白い。またこの液肥については詳しく調査中とのこと。

研修の様子



以上

視 察 報 告 書

平成31年2月1日

薩摩川内市議会
議長 福田 俊一郎 様

公 明 党

代表 中島 由美子



政務活動費による視察を実施したので、次のとおり報告します。

1. 視察年月日 平成31年1月28日（月）～30日（水）
2. 視察参加者 中島 由美子、杉藺 道朗
3. 視 察 地 ① 岡山県玉野市
② 岡山県新見市
4. 視 察 事 項 ① たまの版生涯活躍のまち基本計画について
② ICT教育の推進について

視察の概要は次のとおりでした。

1月29日 岡山県玉野市

「たまの版生涯活躍のまち基本計画」について

【対応者】

副議長 渚 洋一氏 議会事務局主幹 山田豊信氏
政策財政部 総合政策課 課長 小笠原隆文氏
政策財政部 総合政策課 生涯活躍のまち推進室 室長 多田由美子氏
政策財政部 総合政策課 生涯活躍のまち推進室 主任 佐藤 健介氏

【玉野市の概要】

玉野市は、岡山県の南端に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた風向明媚で温暖な気候の港町である。市の中心部にある宇野港は、岡山県の海の玄関口であり、瀬戸内海の海上交通の重要拠点として発展してきた。フェリーの定期航路のほか、近年では大型船舶が着岸できる耐震バースに外国からのクルーズ客船の寄港も増えている。

産業については、造船業の企業城下町として発展してきたこともあり、多くの造船関連企業が集積する「ものづくりのまち」といわれ、製造業が中心となっている。

近年、市民のまちづくりに対する参画意識が高まっていることから、地域が主体性を持ち、その能力を十分発揮できるよう市民活動の積極的な支援が行われ、市民と行政との協働によるまちづくりが進められるとともに、玉野市を取り巻く環境の変化に適切に対応し、限りある財源の中で事業の選択と集中が行われながら、「安心・活力・支えあい～みんなで築く自立都市」を将来像として掲げ、地域の特色を生かした満足度の高いまちづくりが進められている。

○副議長 歓迎のあいさつの概要

玉野市は40年で2万人ほど人口が減少した。定住促進は進んでいない。典型的な工業都市であるので、企業の省力化により従業員数が減少したことが人口減の主因である。

過去、フェリーは24時間営業で150便運行しており活気があったが、瀬戸大橋の完成に伴い、現在は5便となり、人の流れが変わってきた。

今後、市民のために何を残すかが課題である。

視察目的のCCRS e aは、国の政策を受けて進めているが、なかなか思うように進んでいないのが現状である。薩摩川内市からのご意見等があればお聞かせ願いたい。

【視察テーマの概要説明】

- ・ 宇野港が四国への玄関口として機能している。観光客は宇野を中心として動いている。
- ・ 長期人口ビジョンによると、玉野市の人口は2040年には4万人となる予想である。凄まじい人口減少である。市内に従事せず、市外へ働きに出る人が多く、労働力の減少を招いている。
- ・ 医療費が県内の中でも高く推移している。
- ・ 以上のようなことから、生涯活躍への課題と健康づくりを核とした「たまの版生涯活躍のまち基本計画」を策定し、官民一体となって施策を進めている。
- ・ 事業推進団体（主体）への補助・協力も進めており、将来的には自立するようになっている。
- ・ 大学や若者を活用して、「たまの版生涯活躍のまち」について、広く市民に広報し、定住促進へつながるようにしている。
- ・ 個人向け健康食の開発にも取り組んでいる。（ヘルスケアサービス）
- ・ 企業への健康プログラムも検討している。また、インバウンドの対策も研究している。

- ・健康と宿泊とセットでの取り組みを進めている。市内にあるものを活用して、健康づくりと宿泊を進めている。内容については大学と連携して、数値化している。（目で見える効果）
- ・街中（ショッピングモール等）でも健康づくりができるように施策を打っている。また、民生委員などの会合などを通じて、市民の方々へ周知し、活用して頂くようにしている。
- ・HPで移住コンシェルジュを紹介して、事業内容を広報している。

【質疑応答】

Q：「たまの版生涯活躍基本計画」は総合計画として取り入れてもいいような内容と思われるがどうか。

A：新たな総合計画を30年度に作成している。重点施策として生涯活躍のまちとして、位置づけたところである。

Q：人が健康であることが大事である。特定健康診断の受診率を高めていくための一環であると感じるが受診率向上への施策は。

A：医師会と連携している。市民はよく病院へ通っているが、特定健診としての受診は少ないので医師会へ協力依頼して取り組みを強化していくように進めている。

結果として、医療費は上がっており、予防健康への意識は低い。

Q：幅広い施策がある中で、健康づくりは重要であることは理解する。

観光と健康づくりを売り出しておられるが、その内容をもう少し紹介してほしい。

A：JTBのアドバイスを受けて、玉野競輪の施設を利用して、実際バイクを使って走ってもらうなど、健康づくりに結び付けられないか検討し、対策を打っている。

また、これに関しては問い合わせが多いので、商品開発を進めている。

Q：健康づくりを主体とした事業であるが、家を出かけることができない方々への支援・施策はどのようになっているのか。

A：デイサービス利用者には、ケアマネージャーなどを通じて紹介している。

病気の予防が中心の施策であるので、健康福祉と介護福祉とは別である。

今後は、ブラインドサッカーなどの誘致なども検討し、総合的な健康づくりを目指していく。

Q：「たまの版生涯活躍のまち」への初年度の参加人員は。

A：参加者は約5000人ほどである。

Q：参加者のすそ野を広げる施策は。

A：国の交付金要綱で将来的には自立しなければならないので、稼ぐ手段を検討している。そのことが裾野を広げる事につながると考えている。

Q：薩摩川内と同じような人口減少率である。「たまの版生涯活躍のまち」の事業費はどうなっているか。

A：国からの推進交付金は3年間で3億円事業の半額である。今後、市からの補助も削減する予定である。

【所感】

「たまの版生涯活躍のまち」は、国が示した都市から地方への高齢者の移住を促進し、さらに移住した高齢者が地方で積極的に社会参加することにより、地方の活性化を促すという考え方を基本として、玉野市独自の考え方として、移住者や高齢者のみならず、市民も、若者も、障がいを持つ人も「誰もが活躍」という視点を広げ、取り組みを展開されている。

30年前に関連自治体に大きな期待を抱かせて瀬戸大橋は開通したが、その瀬戸大橋の開

通により、玉野市は大きく様変わりしたようだ。離島へのフェリーが、5社で1日150便程往来していたものが、瀬戸大橋を利用する人が多くなり、現在では1社、わずか5便しか運航していないという。このことが就労者減少、人口減少の大きな引き金になったようだ。

また、併せて、少子高齢化も進み何とか市を挙げて対策を打とうとしているのが「たまの版生涯活躍のまち基本計画」であると思われる。

玉野市では、この基本計画を推進するために、着地型観光商品の開発、パッケージツアーの開発、健康食品の開発、宿泊型保健指導プログラムの開発、施設有効活用プログラムの開発、大学連携、健康づくり講座など既存の各種講座の充実など、多くの施策が講じられているが、薩摩川内市の市民福祉部や商工観光部、企画政策部、また、株式会社薩摩川内市観光物産協会などで取り組んでいる高齢者福祉や交流人口増対策、シティーセールス、スポーツ振興などとほぼ似たような施策であると思われる。

この計画は、2018年度から2020年度までの3年で打ち切り、後はそれぞれの分野で独立して施策が講じられることになっているというが、折角高く掲げられたアドバルーンが萎んでいくような気がしてならない。

ただ、人口減少やまちの疲弊にただ手をこまねいているばかりでなく、何とか立ち向かおうとされる意気込みは評価したいと思う。

日本全体が人口減少の中、地方の人口減少には歯止めがかけられない。その中であって「たまの版生涯活躍のまち」の取組は幅広く素晴らしいと思う。ただ、国の交付金頼みであるため、3年間の取組であり、自立を目指さねばならない。何とか自立、つまりは稼ぎ、自市だけで取り組めるよう市民理解がもっともっと必要なのではと思う。折角の取組が3年で終わらないことを願う。

また、観光と健康をJTBと一緒にあって取り組んでいる。バイク活用をはじめ、健康な食事の提供、温泉は皆が喜ぶものであり、商品化が計画されている。

オリンピックやパラリンピックが近づく今こそ、多くの方々に（外国人も含め）目に付くような旅行商品の開発は薩摩川内市でもできればと思うところである。



【渋川海岸での健康づくり教室の視察】



【「たまの版生涯活躍のまち」の研修】

1月30日 岡山県新見市 ICT教育の推進について

【対応者】

新見市立哲西中学校 校長 小藤一成氏 教頭 藤野哲久氏
教育委員会学校教育課 参事 竹元 涉氏

【新見市の概要】

新見市は、岡山県の最西北端、高梁川の源流域に位置し、東は真庭市、南は高梁市に、そして北は鳥取県日野郡、西は広島県庄原市に接している。面積は、793.29km²で岡山県の11.2%を占め、全域が中国山地の脊梁地帯に属するため起伏の多い地形で、総面積の86.3%の684.56km²（H27農林業センサス）を森林が占めている。

新見市は、古代の律令制のもとで、高梁川の東側は阿賀郡、西側は哲多郡と呼ばれ、明治のはじめまで砂鉄を溶かすたたら製鉄が盛んに行われていた。平安時代末期になると、税を納めないという特権を持つ荘園に組み入れられていく地域も多く見られるようになり、新見庄、永富保などの荘園が整えられた。現在も、新見庄の荘園領主であった京都東寺には、関係文書が多く残されている。

江戸時代になり、元禄10年に関備前守長治が初代新見藩主として移封された新見藩、高梁の松山藩、幕府直轄の天領に分割された。

明治4年の廃藩置県で新見藩は新見県に、他の地区は倉敷県となり、その後、深津県、小田県と改称され、同8年岡山県に合併された。同22年に市町村制が施行され、同33年に阿賀郡（旧北房町を除く）と哲多郡が合併して阿哲郡となり、昭和30年頃の「昭和の大合併」などを経て、新見市、大佐町、神郷町、哲多町、哲西町となり、それぞれ50年の歴史を刻み、平成17年3月31日、新見市と大佐町、神郷町、哲多町、哲西町が新設合併し、新新見市が誕生した。

○哲西中学校小藤学校長あいさつの概要

本校は70名程度の生徒数であり、優しい子どもが多い。文部科学省の補助事業を確保して、ICTを導入した。生徒一人一人にiPadを貸与して活用している。特別教室も含め、全教室IWB（電子黒板）を配置して、生徒・教師間の相互の情報共有や勉強ができるようにしている。

【視察テーマの概要説明】

- ・ 新見市の教育方針は「ふるさとを愛し、世界で活躍するたくましい子どもの育成（塩から子）」である。「塩から子」とは、方言で「やんちゃな子」を意味するが、ここでは「何事にも積極的に取り組み、逞しく生きることができる子ども」のことである。
- ・ 新見市は英語教育にも力を入れている。ALTも多く配置して推進している。
- ・ 昨年度から、プログラミング教育にも力を入れている。3か年計画で進めている。
- ・ 新見市では全中学校にICTを導入し、ICTを核に学力向上を目指している。そのために学校内の無線LANの整備を行っている。
- ・ 本年度より、小学校へIWB（電子黒板）を配備した。中学校の実績として教師が活用し、効果が出てきているので小学校への配付を決めた。
- ・ 機器の持ち帰りは原則できないようにしている。無線LANがないので、家庭に持ち込んでも活用ができない。
- ・ クラウドを活用している。教師が原稿などをクラウド内に保存し、生徒が閲覧し、活用している。
- ・ 生徒は文房具を扱うように、iPadを違和感なく活用している。
- ・ 学力向上にどのくらい効果があったかとよく質問されるが、数値化が難しいので答えを出すことができない。ただ、iPadの活用により表現力・発表力の向上が見られる。全国学習学力テストの結果として、全国平均より上位である。

- ・ ICTの活用により、授業時間の短縮ができています。
- ・ ワークシートを集中して教師が見ることができるので、教室内の巡回などが無い。指導する生徒のシートの内容を即時に見ることができ、適切に指導ができています。
- ・ iPadをどのようなときに活用していくのがいいのかも含め研究もしており、また、どのような学習内容で活用できるかも研究している。
- ・ 今後の課題として、小学生の学年別に指導の内容（ICT活用）を精査・研究することである。

【質疑応答】

- Q：ドロップボックス（クラウド）の容量はどのくらいか。無料との説明があったが。
- A：1台当たりの通信量は2GBであるので無料の範囲内である。
- Q：ポスターなどの作成に係るソフトは、流通しているものか、それとも自己ソフトか。
- A：教師が参考になるものを見つけて、クラウドへアップし活用している。
- Q：教師の指導体制は。
- A：教育会館センターがあり、その中にデータを処理するクラウドを持っているので、教師が共通して利用している。
- Q：iPadへの教師の習熟度はどの程度か。年齢層によって苦手な教師はいないか。
- A：年齢による差はない。むしろ「得手」「不得手」の個人差はある。
- Q：教師には転勤があるが、転勤した教師の感想などは。
- A：市内は共通であるが、市外に転勤した教師はICT利用がなくなり、不便を感じているとのことである。
- Q：ICT導入に係る教育長の意気込みはどのようであったか。
- A：ICT導入へは前市長が教育力向上のために積極的であった。
- Q：新見市の中学校ではICTで教育を受けているが、高校ではどのようになっているのか。
- A：高校は活用していないので、今後、高校との連携も視野に入れて検討するべきだろう。
- Q：ICT教育が学力向上につながっているか。
- A：ピンポイントで数値は取っていないが、表現力向上が顕著である。本市は全国学力テストでは全国平均より上である。
- Q：部（クラブ）活動での活用はどのようにされているのか。
- A：まずは、使用上のルールをしっかりと決めて運用している。地域性ではあるが、地域・保護者が学校に対して協力的であるので、運用はしっかりできている。
また、部活動は運動部なので、運用はしていないが、生徒活動では十分活用している。
- Q：タブレット使用により、目に対する健康面はどうなっているのか。
- A：養護教諭の報告では、年々弱視化が進んではいるものの、タブレットなのか、スマホなのか不明である。社会的要因ではないかと判断している。

【所感】

視察した哲西中学校は、全校生徒が70名程であり、全員にiPadが貸与されているが、実際授業風景を見たとき、iPadが教育に溶け込んでいるという実感があった。校長先生が「生徒が素直なところがいい」と言われたが、実際iPadを使った授業を見せて頂いた時、どの教室に行っても一斉に挨拶をしてくれて、またすぐに授業に打ち込んでいた。

新見市では、平成22年度から総務省の「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」に参画、高尾小学校に校内無線LANの整備、1人1台のタブレット端末(全75台)の配備、普通教室への電子黒板(IWB)の導入(6台)、平成23年度には、総務省の「ヒューチャースクール推進事業」、文部科学省の「学びのイノベーション事業」に参画、今回視察した哲西中

学校に、校内無線LANの整備、1人1台のタブレット端末の配備、普通教室特別教室へ全11台の電子黒板の整備を進め、平成26年度、満を持して「新見市ICT活用教育推進事業」が開始された。平成30年度には、市内全小学校の6年生教室への電子黒板設置及びデジタル教科書の導入も行っている。

平成29年度から、ソフトバンク社が実施するPepper社会貢献プログラムにも参加、教員を対象にしたPepperプログラミングについて研修からスタートした。教員は悪戦苦闘しながらも、児童生徒にプログラミングの楽しさを伝えたいとの思いで研修に取り組み、授業の組み立てなどの検討を進めてきた。現在では、新見市の全小中学校で、総合学習の時間を利用してプログラミングの授業を行っているという。

生徒たちは、iPadを駆使して、ポスター作製をするのはお手のもの、中学生が小学生に対して、iPadの使い方やプログラミングについて指導をするまでに高まっているようだ。

視察した哲西中学校は小規模校とはいえ、ICT教育に取り組む姿勢は並大抵のものではないと感じた。ここまで高まった背景には、指導する教師、指導される子どもたちの努力はもちろんであるが、保護者の理解もあったはずである。

生徒数が減少する哲西中学校ではあるが、このような過疎地でもICTを使った立派な授業ができる、都会に負けない立派な教育ができる、といった気概が溢れていた。

我が薩摩川内市では毎年のように教育用のパソコンの更新が行われており、ICT教育の一環として、パソコンを使った授業が盛んに行われているはずであるが、実際その様子を見たことがない。これは大いに反省すべきことだ。

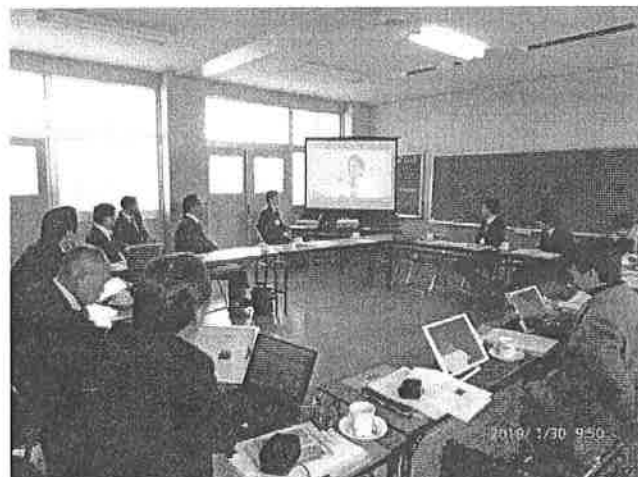
今回の政務調査は、我がまちのICT教育をしっかりと見つめるべし、と指摘してくれた。

今後議会活動の一環として、総務文教委員会もしくは会派で、本市のICT教育を視察すべきであると認識した。

プログラミング教育は、2020年度からの新学習指導要領に入っており、やっていかねばならないが、新見市では、先進的にやっておられ、生徒たちが、Pepperを使って案内ができるプログラムを作成、プレゼンができるまでになっていることに驚いた。学力向上に役立っているかは数値化できないのでわからないとのことだが、皆の前で話していけるということは、今からの子どもに必要な能力ではないかと思う。目指す子どもの姿は新見市も薩摩川内市も同じ、基礎学力をつけ、ふるさとを愛し、自分らしく活躍できること。目の健康に気を付けながら生きる力、ICTをしっかりと活用できる力をつけていきたいものだと思う。



【電子黒板を使った授業風景】



【新見市のICT教育の研修】

調査研究費

領 収 証

No 365015

公明党 様

平成30年 7月 26日

下記の通り領収致しました

合計金額 ￥165,380-

鹿児島市中央町18番地1

南国交通株式会社


電話 (099)255-2141

受領者印



摘 要	金 額	備 考
航空券代 7/30 ANA622 鹿児島-羽田	26,780	旅割45
" 8/1 SNA77 羽田-鹿児島	33,980	35バグ
JR券代	62,420	
宿泊代	42,200	
消 費 税		発行部所
合 計	¥165,380-	川内営業所 (0996)23-2161

市内旅費領収明細書

整理番号	日付	出張用務	起点～終点	旅費額	領収日	領収印	備考
1	7月30日 8月1日	会派視察市内旅費	隈之城 ～ 平佐西	220円	7/30日		
2			～	円			
3			～	円			
4			～	円			
5			～	円			
6			～	円			
7			～	円			
8			～	円			
9			～	円			
10			～	円			
11			～	円			
12			～	円			
13			～	円			
14			～	円			
15			～	円			
16			～	円			
17			～	円			
18			～	円			
19			～	円			
20			～	円			

※ 薩摩川内市職員等旅費の支給に関する条例施行規則に準じて支出

政務活動費支払証明書

使途項目 調査研究費

支払年月日	支払額	支払先	使途及び内容	添付できない理由
H30.7.30 H30.8.1	3,100 円	南国交通	川内駅から空港までのバス賃（往復）	当日、乗車券を購入したため
H30.7.30 H30.8.1	3,100 円	南国交通	上川内から空港までのバス賃（往復）	当日、乗車券を購入したため
合計	6,200 円			

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成30年8月1日

会派名 公明党
代表者 中島 由美子



政務活動費支払証明書

使途項目 調査研究費

支 払 年月日	支 払 額	支 払 先	使 途 及 び 内 容	添付できない 理 由
H30.7.30	820 円	京浜急行電鉄	羽田国内線ターミナル ～品川駅 <small>4/0円x2人</small> (2人分)	領収書発行が できないため
H30.8.1	820 円	京浜急行電鉄	品川駅～羽田国内線ターミナル <small>4/0円x2人</small> (2人分)	領収書発行が できないため
合計	1,640 円			

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成 30 年 8 月 1 日

会派名 公 明 党
 代表者 中 島 由 美 子 

調査研究費

領収書

2018年 07月 31日
車両番号 0412
運賃 ¥670円

合計 ¥670円
立替 円
(有)古川観光タクシー
大崎市古川北町1-3-28
☎ 0229-22-1125
図書館 → 馬込 (古川駅)

領収書

2018年 07月 31日
車両番号 0402
運賃 ¥670円

合計 ¥670円
立替 円
(有)古川観光タクシー
大崎市古川北町1-3-28
(古川駅) ☎ 0229-22-1125
馬込 → 図書館

領収書

No. 8977

日付 2018年 07月 31日
車番 000524 0000
基本運賃 ¥1,120円

合計 ¥1,120円

上記の様に領収致しました
毎度ご乗車

ありがとうございます。
忘れ物のお問い合わせ
お気づきの点は、
下記にご連絡下さい。

(株) 気仙沼観光タクシー
気仙沼市田中前三丁目7番3号

TEL 0226 (22) 6000

老役所 → 観光地 → 馬込
気仙沼駅

調査研究費

領 収 証

平成 30 年 8 月 9 日

自民おつみ会・公明党 殿

金 額			¥	1	2	0	3	6
-----	--	--	---	---	---	---	---	---

但 お土産代として (3ヶ所分)

参加人数により概分

自民おつみ会 $12,036円 \div 9人 \times 7人 = 9361.3円 = 9361円$

公明党 $12,036円 \div 9人 \times 2人 = 2674.6円 = 2675円$

上記正に領収いたしました

白 石 酒 店

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町11-32

TEL・FAX 0996-22-7215

収 入

印 紙

扱 者 印



※ 領収書の原本は、自民おつみ会の報告書に添付

調査研究費

領 収 証

No.371060

薩摩川内市議会 公明党 様

平成31年 1月24日

下記の通り領収致しました

合計金額 ￥ 120,140-

鹿児島市中央町18番地1

南国交通株式会社

電話 (099)255-2141





受領者印

摘要	金額	備考
視察費として	120,140	
消費税		発行部所
合計	¥120,140-	川内営業所 (0996)23-2161

調査研究費

市内旅費領収明細書

整理番号	日付	出張用務	起点～終点	旅費額	領収日	領収印	備考
1	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	隈之城 ～ 平佐西	220円	1月28日		
2	1月28日 1月30日	会派視察市内旅費	可愛 ～ 平佐西	150円	1月28日		
3			～	円			
4			～	円			
5			～	円			
6			～	円			
7			～	円			
8			～	円			
9			～	円			
10			～	円			
11			～	円			
12			～	円			
13			～	円			
14			～	円			
15			～	円			
16			～	円			
17			～	円			
18			～	円			
19			～	円			
20			～	円			

計 370円。

※ 薩摩川内市職員等旅費の支給に関する条例施行規則に準じて支出。

調査研究費

領 収 証

公明党 様

31年1月30日

★ 6,350-

但
上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額等(%)

岡山県新見市高尾2393-4
株式会社新見交通
TEL 0867-72-0258

領収証 No.6

本ビル → 新見市哲西中学校 773-1代

領 収 証

公明党 様

31年1月30日

★ 6,750-

但
上記正に領収いたしました

内 訳
税抜金額
消費税額等(%)

岡山県新見市高尾2393-4
株式会社新見交通
TEL 0867-72-0258

領収証 No.6

新見市立哲西中学校 → 新見駅 773-1代

調査研究費

領 収 証

平成 31 年 2 月 28 日

自民むつみ会・公明党 殿

金 額				¥	5	9	8	2
-----	--	--	--	---	---	---	---	---

但 お土産代として(2ヶ所分)

参加人数により按分

自民むつみ会 $5982円 \div 9名 \times 7名 = 4652.6円 = 4653円$

公明党 $5982円 \div 9名 \times 2名 = 1329.3円 = 1329円$

上記正に領収いたしました

白石 酒 店

〒895-0055 鹿児島県薩摩川内市西開聞町11-32

TEL・FAX 0996-22-7215

収 入

印 紙

収 者 印

※ 領収書の原本は、自民むつみ会の報告書に添付。

資料購入費

地方キ-ワ-ド 加除分

地方行財政改革の現状・課題・方向性について学び、論点に生かすため

通常払込料金 加入者負担		振替払込請求書 兼受領証				
口座番号	00140 ■ 8 ■ 10000					
加入者名	株式会社きょうせい					
金額	千	百	十	円		
			2	9	1	6
振込先	みずほ 銀行 東京営業部 支店					
X 依頼人住所氏名 切り取らないでお出しください。	鹿児島県 薩摩川内市					
	国分寺町3964					
	公明党					
	杉菌 道朗					
	要打電項目：806622028					
料	日 附 印					
金	30-06-18					
備	川内中郷					
考	郵便局					
	(78464)					
	N94310020 (NVS店番位)					

この受領証は、大切に保管してください

資料購入費

地方行政キーワード 加除分

地方行政財政改革の現状・課題・方向性について、論点に生かすため

通常払込料金 加入者負担		振替払込請求書 兼受領証	
口座番号	00140 ■ 8 ■ 10000		
加入者 金額	株式会社 ぎょうせい		
	千	百	十
		2	9
		1	6
振込先	みずほ 銀行 東京営業部 支店		
X （依頼人住所氏名） 切り取らないでお出しください。	鹿児島県 薩摩川内市		
	国分寺町 3964		
	公明党 杉菌 道朗		
	要打電項目：901799960 様		
日 附 印	31-01-23		
川内中郷 郵便局	円		
(78464) N94330002 (CVSAS) 諸控			
この受領証は、大切に保管してください			

資料購入費

日本農業新聞代

日本の農業の現状・課題・方向性について学び、論点に生かすため。

公明党

領 収 書

No. 191161

中島由美子様

平成 30 年 11 月 2 日

領収金額				7	/	3	/	1	5
------	--	--	--	---	---	---	---	---	---

但し 日本農業新聞 263頁×54頁分
入金代として

収 入
印 紙

上記の通り領収いたしました

担当者



北さつま農業協同組合 印

〒895-1811 鹿児島県薩摩郡さつま町虎居74番地
TEL 0996-53-1121

資料購入費

日本農業新聞代

日本の農業の現状・課題・方向性について学び、論点に生かすため。

公明党

領 収 書

No. 198581

中島 由美子 様

平成 31 年 5 月 12 日

領収金額

¥ 26,230

但し 日本農業新聞 2月分として

収 入
印 紙

上記の通り領収いたしました

担当者



北さつま農業協同組合

〒895-1811 鹿児島県薩摩郡さつま町虎居745番地

TEL 0996-53-1124(代)

事務費

西暦		2018年 5月 9日		領 収 証		No. 0701720		
						レシートの売上伝票番号 23100-		
						0442063-5		
公明党				様				
金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
				¥	759			→
内消費税				¥	56			→
内	現金			¥	759			→
訳								→
残	金			¥	0			→
店名	薩摩川内店							
係名	[Redacted]							
				但し		インカートリッジ代 とこ?		
				上記金額正に領収いたしました				
				KS ケーズデンキ		〒310-8282 茨城県水戸市桜川町目生番1号 株式会社九州ケーズデンキ		

収入印紙
貼 付
印

※商品・配送・修理に関するお問い合わせは、お買上店までお願いいたします。
※店名・係名のないもの、金額を訂正したもの及び複写でないものは無効です。

事務費

西暦		2018年 8月 19日		領 収 証		No. 0633830		
						レシートの売上伝票番号 23100-		
						0331640-3		
公明党				様				
金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円
				¥	2	7	7	0
内消費税				¥	2	0	5	
内	現金			¥	2	7	7	0
訳								X
残	金			¥	0			0
店名	薩摩川内店			但し K ケーズデンキ 〒310-8282 茨城県水戸市榎川町目生番1号 株式会社九州ケーズデンキ				
係名	[Redacted]							

収入印紙
貼 付
印

上記金額正に領収いたしました

※商品・配送・修理に関するお問い合わせは、お買上店までお願いいたします。
※店名・係名のないもの、金額を訂正したもの及び複写でないものは無効です。

事務費

西暦		2019年3月28日		領 収 証		No. 0701732			
						レシートの売上伝票番号 23100-			
						00475394-A			
公明党様									
金額		百万	拾万	万	千	百	拾	円	
					4	7	7	2	
内消費税						9	5	7	
内	現金					7	7	2	
訳								9	
	残金					7	7	0	
店名	藤原川内店								
係名	[Redacted]								
								収入印紙貼付	
								印	
								但し A4同紙代にて	
								上記金額正に領収いたしました	
								KS ケーズデンキ	
								〒310-8282	
								茨城県水戸市桜川1丁目1番1号	
								株式会社九州 ケーズデンキ	

※商品・配送・修理に関するお問い合わせは、お買上店までお願いいたします。
※店名・係名のないもの、金額を訂正したもの及び複写でないものは無効です。